



SFT999 つくば宣言

サイエンス・フロンティアつくば 999

ゼネラル・チェア

江崎 玲於奈

筑波研究学園都市は1万2000人以上の科学者、技術者を擁した世界最大級の研究開発拠点であり、歴史は浅いのですが、世界に誇る多くの研究成果を生み出しました。

今回、「科学と技術の限界に挑む」を主テーマに、世界で初めてと言える複数の専門分野から成る **multidisciplinary** な国際会議「サイエンス・フロンティアつくば 999」(SFT999)を開催しましたが、新しい分野の発展には多くの参加者に深い感銘と大きな関心呼び起こしたと信じます。

言うまでもなく、筑波研究学園都市は、様々な分野の研究が行われている **multidisciplinary city** なので、このような国際会議を開催するに最適地です。科学や技術の世界は多くの専門分野に分かれて研究開発が進められていますが、他の専門分野との連携の重要性が益々高まっているのが今日の趨勢です。異分野との **cross-fertilization** によって新しいフロンティアが開拓されるでしょうし、20世紀の科学文明が生み出した環境問題や人口急増と資源、エネルギーに係わる諸問題などに対処するにもやはり **multidisciplinary** なアプローチが求められるのです。

SFT999は、自分の専門はもちろん、専門以外の分野の動向を知り、関連分野の全貌をつかむ絶好の機会を与えたものと信じます。本会議中、現在の自分の研究は科学の進歩の中でどのように位置づけられるか。研究を一段と進歩させるには何が必要か。理論が不足か、実験が不備か。将来、どのように他分野と提携して発展させるべきか、如何にして未知の分野に挑戦できるか、などを考慮して頂けたと思います。ともかく、科学の発展には各個人の創造力が求められるだけでなく、研究者相互の活発な意見交換が絶対に必要です。

「つくば」には大学をはじめ、様々な分野の官・民の研究所がありますが、この内、約30の国立研究機関が2001年4月に独立行政法人化されることになっています。この法人化の機会を捉え、従来の制約から解放されて、より柔軟で自主性があり、活力に満ちた組織にするべく努力しなければなりません。また民間企業の研究所においては、今後一層厳しく国際競争にさらされ、今まで以上にその研究開発の質の向上とその成果の **use** (活用) が求められることは明らかです。大学や国立研究所においても、新しい **knowledge** を創造して科学の世界に貢献するだけでなく、それと同時に、その **knowledge** の **use** にも真剣に取り組み、企業の支援やベンチャーの創出などにも力を尽くさねばなりません。

これらの目標を達成するためのマイルストーンとして、今回の SFT999 を位置づけたいと思います。そして、この精神を持続させ、なお一層発展させるため、「つくばサイエンス・アカデミー」を発足させることが必要だと考え、ここにその準備委員会設立を提案します。

今こそ、つくばにある多くの異分野のブレイン相互の知的触発に役立つ **multidisciplinary** で、グローバルな研究ネットワークの形成や、他に類を見ない先駆的な研究領域の創造を目指すべきです。そして、われわれは「つくば」を日本から世界へ向けて、科学・技術の情報を発信する強力な基地にするための一層の努力を続けていきたいと思ひます。

1999年11月19日